自動車解体業界の声

有限責任中間法人
日本ＥＬＶリサイクル機構

JAERA News Letter

Jun/25/2008 No.18

平成20年度社員総会開催される

日本ELVリサイクル機構の 平成20年度定期社員総会 ―速 報―

去る6月6日、日本ELVリサイクル機構の平成20年度定期社員総会が、初夏の色濃い北海道札幌市内の札幌コンベンションセンターで開催されました。詳しい内容は、次号の『日本ELVニュース』に譲ることとし、ここでは総会のポイントをかいつまんで報告します。

平成19年度の活動報告(代表理事の挨拶より)

・自動車リサイクル法施行後２年が経過した昨年度は機構の活動が活発化し事業内容の充実が図られた。

・顕著な事業として,「JAERAインストラクター」の養成事業が上げられる。自再協の協力により実施された本事業は、認定されたインストラクターの皆さんが、単にフロン回収、エアバッグの処理技術の熟達にとどまらず、解体技術の研究･改善、高効率化など、自動車解体業が今後自動車リサイクル業として発展していく中で、それぞれのブロックにあって中心的役割を担って行ってくれることを期待している。

・本年３月、東京における「インストラクター全国大会」には、多くの会員ならびに関係者が各地より駆けつけてくれ、盛大に実施することが出来たが、成功の影には、懸命になって準備にかかわってくれた実行委員会の働きがあったからで、我々のような小規模な団体であっても、会員全員が力を合わせれば大きな仕事が出来ることを実践してくれたのは今後に繋がる素晴らしいことと考える。

・これらの動きは、これから開催される『自動車リサイクル環境フォーラムin北海道』にも継承され、地元北海道の会員ならびに機構の役員が昼夜をついで準備に当たってきた結果、外に対しても誇れる素晴らしい催し物になると確信している。

人事ならびに組織

・社員総会では、5名の新任を含む理事16名が選任されました。

選任理事一覧(敬称略)　＊:新任

理事氏名	所属ブロック	役職・所属
酒井 清行	関東－東	代表理事
寺谷　優	近畿	副代表理事
伊丹 伊平	北海道	ブロック長会議議長･総務部会
平地　健＊	東北	ブロック長･広報部会委員
木内 俊之	関東－東	ブロック長･総務部会長
森下 秀次＊	関東－西	ブロック長･部品流通部会
金澤 寿幸＊	関東－中	ブロック長･部品流通部会
岩井 洋二	中部･北陸	ブロック長･商用車部会
高野 和憲	近畿	ブロック長･広報部会長
吉川 日男	中国	ブロック長･リサイクル技術部会長
安岡 英一＊	四国	ブロック長･リサイクル技術部会
辻　隆雄	九州	ブロック長･リサイクル技術部会
垣花 善則	沖縄	ブロック長･リサイクル技術部会
清水 信夫	関東－東	部品流通部会長
大橋 岳彦	関東－西	部品流通部会
羽鳥 貞雄＊	関東－中	商用車部会長

・本紙では、今回選任された理事各位に対しアンケート調査を行い、その回答を掲載します。 先ず、今号で8名の方々を取り上げ、残る方々には次号にご登場いただきます。

・長きにわたり業界発展の礎となり、機構設立当時から理事を歴任された先輩諸氏5名の方々には新設の相談役にご就任頂き、今後も引き続いて機構を側面よりご支援していただくことになりました。

・機構の活性化には、各地域団体ならびに各ブロックの活性化が不可欠との認識に立ち、今期より、『ブロック長会』を設け、理事会の決定に基づく活動の全国展開を各ブロックにおいて実施する他、加盟各団体の意見・要望等を取りまとめて理事会に持ち上げるという、極めて重要な役割が課せられました。 初代のブロック長会議議長には伊丹伊平氏（北海道）にご就任いただくことに決定しました。 各地域団体ならびに各ブロックでは、ブロック長を中心とする協議、情報交換の場を設けるなど、地域活動の活性化が期待されます。

・昨年度実施された「JAERAインストラクター」制度の更なる活性化を図るため、新たに「リサイクル技術部会」が設けられました。 同部会には、リサイクル技術に特化するリサイクル技術調査委員会」とインストラクター制度の活用ならびに拡充を進める「研修制度委員会」が設置されました。

理事プロフィール

本紙では、選任された理事全員にアンケートを行い、業界の現状に関するお考え、今後の抱負などをお伺いしました。 各理事の回答を本紙に掲載し、機構執行部と構成会員間の相互理解促進を図る一助とします。 紙面の都合上、今回は8名の理事にご登場いただき、残りは次号に掲載いたします。

☆理事にお尋ねしたこと

（回答の番号と符合します）

①今期は我々業界にとってどのような年になるとお考えですか？

②理事のご担当ならびに所属ブロックの重点課題は何ですか？

③今後実施したいとお考えの機構の活動はどのようなものですか？

④ご自身のモットーまたは座右の銘を教えてください。

お　名　前：酒井 清行
機 構 役 職：代表理事
所属ブロック：関東－東

（回答）

①新車販売不調、使用済み自動車発生減、資源価格高騰、仕入れ競争激化によって、ますます厳しい環境になる。無理な競争をせず、地道に直接の顧客を増やすことが求められる。

②機構の安定的な財政基盤を確立し、受け皿となりうる次世代を育成すること。

③各都道府県団体とブロック、本部の活動を一本化し、業界全体が一つのパワーとして機能するような体制を整えること。
世界各国の業界団体と交流し、世界で最大、最良の日本車の中古パーツの発生地としての優位性を活用できる体制を確立すること。

④照一隅

お　名　前：寺谷　優
機 構 役 職：副代表理事
所属ブロック：近　畿

（回答）

①新車販売、ELVの減少、相場の高値などにより小事業者の廃業が増えてくるのではないでしょうか。 相場が逆に作用するかも。

②機構の活動の充実、各ブロックにおける会員間の関係緊密化、また、一般ユーザー、地域に密接した行動をとっていくこと。

③機構と各ブロックが団結した行動の活性化、業界の地域における地位向上

④継続は力なり

お　名　前：伊丹 伊平
機 構 役 職：理事・ブロック長・ブロック長会議長・総務部会
所属ブロック：北 海 道

（回答）

①業界内企業間格差の進行。 専門店（プロショップ）化、地域オンリーワン企業へ、模索元年。

②新設のブロック長会の起動と議長の職責の明確化。 地域（北海道）密着、環境行政と連携した社会貢献。

③会員のための情報収集と的確な発信、それによる具体的提案。
培われてきた特性、手分解、手選別の技術を生かすリサイクル文化の創造（都市鉱山採掘？とか）

④やってみなけりゃわからない

お　名　前：木内 俊之
機 構 役 職：理事・ブロック長・総務部会長
所属ブロック：関東－東

（回答）

①仕入れ競争の激化により厳しい経営状況になっていくと思います。より一層の努力が必要だと感じています。

②会員各社への情報提供および連絡の徹底を計ること。

③（個人的希望）団体同士の交流（工場見学・意見交換）

④人は善を為せば必ず栄う

お　名　前：金澤 寿幸
機 構 役 職：理事・理事・ブロック長・部品流通部会
所属ブロック：関東－中

回 答

①玉不足の中ELVの取り合いになり、さらに二極化が加速すると思う。
②東京は作業場の確保が年々難しく、埼玉と新潟ではそれぞれ問題がるとおもう。 近々会合をもち課題を検討したい。
③リユース部品の使用によるCO2の削減効果等、環境に良い活動をしていることを引き続きアピールしていく。
④おかげ様の心

お　名　前：吉川 日男
機 構 役 職：理事・ブロック長・リサイクル技術部会長
所属ブロック：中　国

回 答

①自動車リサイクル法の見直し議論とともに他団体との連携が非常に重要となり、社会的責任が重くなる。
②島根県の業者に対する情報提供と、講習会参加の推進。
③JAERAインストラクターを中心にしてリサイクル技術の向上と新しい情報提供のための全国統一講習会を開催すること。
④何事も可能と思って行動すれば、不可能なことは少ない。常に前向きな行動が大事である。

お　名　前：岩井 洋二
機 構 役 職：理事・ブロック長・商用車部会
所属ブロック：中部・北陸

回 答

①さらにメタルの高騰が進み、車の仕入れの競争の激化で厳しさが増すと思います。
② 組織力の強化への団結。
③各会社の労働災害の調査とさらなるCO2削減のキャンペーンの取り組み。
④ 誠実と公平性

お　名　前：安岡 英一
機 構 役 職：理事・ブロック長・リサイクル技術部会
所属ブロック：四　国

回 答

①燃料の高騰により新車販売台数は落ち込み廃車台数も落ち込む。
②地域発生の廃車の遵法適正処理を徹底することで、組合員の社会信頼を確立したい。
③廃車処理技術の標準的方式のマニュアル化と行いたい。
④Together with you! 貴方とご一緒に

自動車リサイクル環境フォーラム in北海道

◆去る6月6日～7日の両日、札幌において、日本ELVリサイクル機構と北海道自動車処理協同組合（北自協）共同主催する「自動車環境フォーラムin北海道」が開催されたことは会員各位もご承知の通りです。また、このフォーラムは、経済産業省、環境省を始め、北海道、札幌市が後援、自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構（自再協）が協賛するなど、自動車リサイクルに関連する各機関の関心を集めて開催されました。本フォーラムの詳細は、次号の「日本ELVニュース」に掲載されるので、本誌では、フォーラムのポイント、意義などにつきご紹介します。

◆来る7月7日より北海道で開催されるG8（主要国首脳会議）では、特に環境問題、中でも、人類の将来に多大な影響を及ぼすといわれている気候変動問題が話し合われます。 環境と密接な繋がりをもつリサイクル産業に携わる我々にとって、今回のフォーラムは、今後環境問題に如何に対処するかという重要なテーマを共に考える場となりました。

◆環境フォーラム構想は、先ず、北自協のなかで構想が練られ、これに日本ELVリサイクル機構が賛同し両者協力のもとで合同の実行委員会が組織されました。

長期間に渡る準備を経て開催に至ったものです。また、ELV機構の平成20年度定期社員総会と同時開催としたため、全国より大勢の関係者が参加したこともフォーラムが極めて盛況のうちに開催された要因の一つであった思われます。

◆参加できなかった皆さんのために、プログラムをかいつまんでご紹介しましょう。 プログラムは、大きくは次の4つに分けることが出来ます。

①記念講演、基調講演

《講演者》経済産業省自動車課自動車リサイクル室長 高橋政義氏、環境省自動車リサイクル対策室長　松澤裕氏、自動車リサイクル促進センター　理事長・同志社大学経済学部教授 郡蔦孝氏

②テーマ別分科会

4つのテーマが選ばれ、参加者それぞれが希望する分科会に参加して行われました。何れのテーマも、数十人は収容できる会場が満席になる盛況で、講師の講演に引き続き、聴衆も交えた活発な討論が行われた。各分科会のテーマと概要は以下の通りです。

・第一分科会　自動車リサイクル部品の普及とCO2削減貢献
・第二分科会　使用済み自動車流通の構造変化と業界対応
・第三分科会　リサイクルしやすい車両設計の展望
・第四分科会　自動車リサイクル技術と研修制度の構築

③パネルディスカッション

学識建研者、消費者、自治体、関係機関、業界各代表が参加し、「環境とリサイクル、私たちにできること」と題したパネルディスカッションが開催された。また、同パネルディスカッションでは、各テーマ別分科会の報告があり、それぞれ自分が参加できなかった分科会での議論の様子が分かる工夫がなされました。

④映画会

会期中、二本の映画が上映会され、それぞれ満員の盛況を呈していました。上映された映画は：

・不都合な真実：元アメリカ民主党副大統領のアル・ゴア氏が主演した映画で、地球温暖化への警告をテーマにしており、気候変動の問題点を広く一般に知らしめたことが評価され、同氏は2007年のノーベル平和賞を受賞すると共に、映画自体はアカデミー賞最優秀長編記録映画賞を受賞するなど大きな反響を呼んだ作品です。

・神の子たち：フィリピンの都市郊外にあるゴミ捨て場に住み、ゴミの中から使えるものを回収して生計を立てる子供達とその家族を描いた記録映画です。
ゴミの山が崩落し、住居共々人々が生き埋めになるというような場面もある衝撃的な映画です。政府が進めるゴミ捨て場の廃止計画も、そこに住む人々にとっては生活の場がなくなるに等しく、劣悪な環境にもかかわらず廃止を阻止せざるを得ない人々。ゴミの問題、貧困の問題など、色々考えさせられる映画でした。

◆今回のフォーラムでは、何れをとっても、わが国、あるいは業界と密接な関係にあるテーマを取り上げており、今後の業界活動を進める上で念頭おくべきポイントが浮き彫りになったと思われます。

①自動車リサイクル問題の社会への周知

施行後 丸三年が経過し、台数的には順調に推移している自動車リサイクル法だが、制度の意義、正しい運用について、一般ユーザー、自動車関係業者に対する更なる理解促進が必要であることが認識された。

②低炭素社会への移行

地球温暖化防止に向けた様々な取り組みが提案されており、国、企業、個人など、様々なレベルでの実行が急務といわれている。 分科会で提起されたような、中古部品使用によるCO2排出低減効果の定量表示など、中古部品市場拡大の観点からも有効な手段と考えられる。

③資源有効活用

現在、車の各所に希少金属が使用されている。台あたりの使用量が微少であることから、触媒など一部以外は余り注目されていない。 資源埋蔵量の限界、資源高騰などの影響により、これら希少金属のリサイクルが注目されている中、自動車リサイクルに関わる我が業界としても、関心を高める必要性が提起された。 自動車メーカー、部品メーカーを始めとする関係者との協力関強化を図りつつ、より有効な解体技術の研究・開発、流通経路の整備などを進めるべきときであることが認識された。

④インストラクター制度の活用

今年から始まったJAERAインストラクター制度に対する業界の期待は大きい。フォーラムにおいても、インストラクターの活動範囲を単にフロン、エアバッグの処理に止めず、自動車解体技術の研究・開発・実践に繋ぐため如何にすべきかといった意見が述べられた。 また、JAERAの活力となる、会員団結の要としてインストラクター制度を位置づけるべきとの意見も述べられた。 定期総会で決議された新組織「リサイクル技術部会」に期待が集まっている。

⑤社会への関心

会期中上映された映画会を通じ、貧困、格差など、人類が抱える問題について考える機会を与えられた。国際商品として流通する中古自動車、中古部品などを扱う我々も、それらが、輸出先でどのように使用され、どのように処理されているのか、これまで余り関心を払ったことがないのではなかろうか。今後は、国際社会の一員として、世界の人々が自由で安全な生活を送れるよう、先ずはわれわれの眼が届く範囲で貢献していきたいもの。

編集後記

◆「案ずるより生むが易し」をそのまま実践した「自動車リサイクル環境フォーラムin北海道」でした。とは言え、成功の影で如何に大勢の仲間が大変な努力を払ってくれたか、想像を超えるものであったに違いありません。我々はまだ若い組織ですが、今春発足したインストラクター制度とともに、力を合わせればこんなことも出来るのだということを確信した三日間でした。中心的に働いてくれた北自協メンバーならびに実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。◆今回から本紙の編集担当が代わりました。懸命に取り組んでまいるつもりですが、今しばらく、温かく見守っていただきますようお願いいたします。今後は、JAERA会員全員にお手伝い頂き、紙面作りを行ってまいります。その第一弾として、理事の皆様、アンケートにお答え頂きありがとうございました。（編集子）

有限責任中間法人
日本ELVリサイクル機構
JAERAニューズレター
発行日：2008年6月25日
発行所：〒105-0004東京都港区新橋3丁目2-2
一美ビル5F
TEL.03-3519-5181／ FAX.03-3597-5171